

労働映画百選通信 No.09 2016.06

発行 ■ NPO法人 働く文化ネット 編集 ■ 清水浩之 〒101-0062 千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館5F

6月11日発表！ 日本の労働映画百選

映画は日本の仕事と暮らし、働く人たちの悩みと希望、働くことの意義と喜びをどのように描いてきたのか。働くことの今とこれからについて考えるために、一世紀余の映画史の中から百本を選びました。

特定非営利活動法人 働く文化ネット・労働映画百選 選考委員会

- 1 明治の日本 1897-99 リュミエール社(仏) [記録]
- 2 川崎三菱労働争議 1921 日活=大原社会問題研究所 [記録]
- 3 何が彼女をそうさせたか 1930 帝キネ 鈴木重吉 [劇]
- 4 第十二回東京メーデー 1931 プロキノ 岩崎昶ほか [記録]
- 5 隅田川 1931 文部省 藪下泰次・斎藤宗武 [記録]
- 6 生れてはみたけれど 1932 松竹蒲田 小津安二郎 [劇]
- 7 有りがたうさん 1936 松竹大船 清水宏 [劇]
- 8 戦ふ兵隊 1939 東宝文化映画館 亀井文夫 [記録]
- 9 煉瓦女工 1940 南旺映画 千葉泰樹 [劇]
- 10 機関車C57 1940 芸術映画社 今泉善珠 [記録]
- 11 或る保姆の記録 1942 芸術映画社 水木荘也 [記録]
- 12 わたし達はこんなに働いてゐる 1945 朝日映画社
- 13 轟進 1946 日映=国労 岩佐氏寿 [記録] 水木荘也 [記録]
- 14 炭坑 1947 日映 伊東壽恵男・柳澤寿男 [記録]
- 15 われら電気労働者 1947 日映=電産労組 竹内信次 [記録]
- 16 海に生きる 1949 日映=海員組合 柳澤寿男 [記録]
- 17 白雪先生と子供たち 1950 大映東京=日教組 吉村廉 [劇]
- 18 どっこい生きてる 1951 新星映画社=前進座 今井正 [劇]
- 19 生きる 1952 東宝 黒澤明 [劇]
- 20 おかあさん 1952 新東宝 成瀬巳喜男 [劇]
- 21 1952年メーデー 1952 メーデー映画製作委 [記録]
- 22 女ひとり大地を行く 1953 キヌタプロ 亀井文夫 [劇]
- 23 蟹工船 1953 現代ぶろ 山村聡 [劇]
- 24 京浜労働者 1953 神奈川県労組ほか 野田真吉 [記録]
- 25 太陽のない街 1954 新星映画社 山本薩夫 [劇]
- 26 立ち上る女子労働者 1954 日映新社=全織同盟 [記録]
- 27 ここに泉あり 1955 中央映画 今井正 [劇]
- 28 赤線地帯 1956 大映京都 溝口健二 [劇]
- 29 喜びも悲しみも幾歳月 1957 松竹大船 木下恵介 [劇]
- 30 ボタ山の絵日記 1957 新文化プロ=共同映画 徳永瑞夫 [記録]
- 31 雪と闘う機関車 1958 国鉄機関車労組 谷恭介 [記録]
- 32 にあんちゃん 1959 日活 今村昌三 [劇]
- 33 海に築く製鉄所 1959 岩波映画=八幡製鐵 伊勢長之助 [記録]
- 34 刈り切り唄 1959 記録映画社=貯蓄増強中央委 上野耕三 [記録]
- 35 年輪の秘密 1959-60 岩波映画=フジテレビ 羽仁進ほか [TVDキュ]
- 36 大いなる旅路 1960 東映東京 関川秀雄 [劇]
- 37 裸の島 1960 近代映協 新藤兼人 [劇]
- 38 1960年6月 安保への怒り 1960 共同映画 野田真吉ほか [記録]
- 39 西陣 1961 京都記録映画を見る会 松本俊夫 [記録]
- 40 キューボラのある街 1962 日活 浦山桐郎 [劇]
- 41 その場所に女ありて 1962 東宝 鈴木英夫 [劇]
- 42 ある機関助手 1963 岩波映画=国鉄 土本典昭 [記録]
- 43 ドキュメント 路上 1964 東洋シネマ=警察庁 土本典昭 [記録]
- 44 68の車輪 1965 東京シネマ=日本通運 森田実 [記録]
- 45 こころの山脈 1966 本宮方式映画製作の会 吉村公三郎 [劇]
- 46 若者たち 1966 フジテレビ 森川時久ほか [TVDドラマ]
- 47 農業禍 1967 グループ現代 小泉修吉 [記録]
- 48 和賀郡和賀町 1967 NHK 工藤敏樹 [TVDキュ]
- 49 黒部の太陽 1968 三船プロ=石原プロ 熊井啓 [劇]
- 50 太陽の王子 ホルスの大冒険 1968 東映動画 高畑勲 [アニメ]
- 51 男はつらいよ 1969 松竹大船 山田洋次 [劇]
- 52 シップヤードの青春 1969 岩波映画=造船工業会 神馬彦佐雄 [記録]
- 53 家族 1970 松竹大船 山田洋次 [劇]
- 54 戦争と人間 三部作 1970-73 日活 山本薩夫 [劇]
- 55 友子儀式 北海道夕張市真谷地炭鉱楓坑 1973 NHK [記録]
- 56 日本の稲作 1974 英映画社=文化庁 青山通春 [記録]
- 57 詩人の生涯 1974 川本プロ 川本喜八郎 [アニメ]
- 58 トラック野郎 御意見無用 1975 東映東京 鈴木則文 [劇]
- 59 どっこい！人間闘 1975 小川プロ 小川紳介ほか [記録]
- 60 日没の印象 1975 鈴木志郎康 [記録]
- 61 男たちの旅路 1976-82 NHK 作/山田太一 [TVDドラマ]
- 62 日本の戦後 第五集 一歩退却、二歩前進 1977 NHK
- 63 あゝ野麦峠 1979 新日本映画 山本薩夫 [劇]
- 64 ザ・サカナマン 1979 黒田プロ 黒田輝彦 [記録]
- 65 遠雷 1982 ATGほか 根岸吉太郎 [劇]
- 66 海峡 1982 東宝映画 森谷司郎 [劇]
- 67 原発はいま 1982 映像集団8の会=運輸一般関西生コン支部 近江道広 [記録]
- 68 魚影の群れ 1983 松竹富士 相米慎二 [劇]
- 69 ガン・ホー 1986 パラマウント(米) ロン・ハワード [劇]
- 70 マルサの女 1987 伊丹プロ=東宝 伊丹十三 [劇]
- 71 母さんが死んだ 生活保護の周辺 1987 札幌テレビ 水島宏明 [TVDキュ]
- 72 魔女の宅急便 1989 スタジオジブリ 宮崎駿 [アニメ]
- 73 あーす 1991「あーす」製作委=サンボード 金秀吉 [劇]
- 74 月はどっちに出ている 1993 シネカノン 崔洋一 [劇]
- 75 踊る大捜査線 1997 フジテレビ 脚本/君塚良一 [TVDドラマ]
- 76 鯨捕りの海 1998 シグロ 梅川俊明 [記録]
- 77 鉄道員 ぽっぽや 1999 東映東京 降旗康男 [劇]
- 78 人らしく生きよう 国労冬物語 2001 ビデオプレス 松原明ほか [記録]
- 79 こんばんは 2003 イメージサテライト 森康行 [記録]
- 80 県庁の星 2006 フジテレビほか 西谷弘 [劇]
- 81 フラガール 2006 シネカノン 李相日 [劇]
- 82 三池 終わらない炭鉱の物語 2006 シグロほか 熊谷博子 [記録]
- 83 ハゲタカ 2007 NHK 大友啓史ほか [TVDドラマ]
- 84 ハケンの品格 2007 日本テレビ 脚本/中園ミホ [TVDドラマ]
- 85 おくりびと 2008 TBSほか 滝田洋二郎 [劇]
- 86 ツウの仕事がしたい 2008 ローポジション 土屋トカチ [記録]
- 87 ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない 2009 アズミックエース 佐藤祐市 [劇]
- 88 任侠ヘルパー 2009 フジテレビ 西谷弘ほか [TVDドラマ]
- 89 孤高のメス 2010 東映東京 成島出 [劇]
- 90 昭和の家事 2010 昭和のくらし博物館 小泉和子 [記録]
- 91 サウダージ 2011 空族 富田克也 [劇]
- 92 舟を編む 2013 テレビ東京ほか 石井裕也 [劇]
- 93 ある精肉店のはなし 2013 やしほ映画社 頼瀬あや [記録]
- 94 ダンダリン 労働基準監督官 2013 日本テレビ [TVDドラマ]
- 95 WOOD JOB！ 2014 TBSほか 矢口史靖 [劇]
- 96 紙の月 2014 松竹=ROBOT 吉田大八 [劇]
- 97 夢は牛のお医者さん 2014 テレビ新潟 時田美昭 [記録]
- 98 昼めし旅 2014- テレビ東京 工藤里紗ほか [TVDキュ]
- 99 種まく旅人 くにもりの郷 2015 松竹 篠原哲雄 [劇]
- 100 下町ロケット 2015 TBS 福澤克雄ほか [TVDドラマ]

【レポート】「日本の労働映画百選」記念シンポジウムと映画会（その1）

「日本の労働映画百選」の公開を記念し、6月11日(土)に東京・千代田区神田駿河台の連合会館で、記念シンポジウムと映画会(『にあんちゃん』)を開催、約150名の方にご参加いただきました。

主催者を代表して、当法人の小栗啓豊代表理事から、
 《「労働映画」という言葉からは、過酷な労働、労働者の団結、労働争議などのイメージを持つことと思いますが、100本のタイトルを見て驚かれる人も多くおられることと思います。例えば『男はつらいよ』がなぜ労働映画として優れているかは、この後のパネルディスカッションをお聞きいただき、今回配布した冊子を見ていただければ、よくわかると思います。》

と述べ、百選委員会では
「働く人たちの暮らしと仕事を描く映像作品」
 を、広義の意味で「労働映画」と定義したことを説明しました。

そして、
 《いつの時代にも、働くことをめぐってさまざまな問題が起こってきました。そうした問題に、それぞれの時代と環境の中で、人々がどのように向き合ってきたのかを、労働映画は強烈なインパクトをもって、現代の私たちに教えてくれます》
 と、労働映画の意義について挨拶しました。

来賓として全労済協会の高木剛理事長と、連合の神津里季生会長にご出席いただき、激励と連帯のご挨拶をいただきました。

(つづく/次号ではシンポジウムと映画会の様子をご報告します)



全労済協会
高木 剛 理事長



連合
神津里季生 会長



働く文化ネット
小栗啓豊 代表理事

今回の「第30回労働映画鑑賞会」は、7月14日(木)18時30分からの予定です。会場/連合会館(新御茶ノ水駅 B3出口)203会議室。参加費無料、申込不要。上映作品は『海に生きる 海洋底曳漁船の記録』(1949年/33分)。ご期待ください。

【上映情報】労働映画列島！6～7月 ※《労働映画列島》で検索！ <http://d.hatena.ne.jp/shimizu4310/00160603>

◎新作ロードショー

フラワーショー！ 《7月2日(土)から 東京 ヒューマントラストシネマ有楽町ほかで公開》

英国王立園芸協会が主催するガーデニング世界大会を舞台に、恋にも夢にも全力で挑む実在の女性を描いた人間ドラマ。(2014年 アイルランド 監督/ヴィヴィアン・デ・コルシイ) <http://flowershow.jp/>

風のように 《7月9日(土)から 東京 下北沢トリウッドで公開》

ちばてつやの短編漫画をアニメーション映画化。事故で家族を失った少年が山里に住み着き、村人も手を付けなかった荒地を、たったひとりで開墾していく。(2016年 日本 監督/本多敏行) <http://www.kazenyouuni.com/>

アルビノの木 《7月16日(土)から 東京 テアトル新宿で公開》

白い鹿を追って山に入った害獣駆除業の男が、様々な出会いを経て人間と自然との関係性を見つめ直すまでを描く。(2016年 日本 監督/金子雅和) <http://www.albinonoki.com/>

◎名画座・特集上映

- 【東京 ラピネタ阿佐ヶ谷】6/26～8/27「昭和の銀幕に輝くヒロイン 浅丘ルリ子」…若い傾斜/でかんしょ風来坊/他
- 【東京 シネマヴェーラ渋谷】7/9～29「女性映画セレクション」…その場所に女ありて/何が彼女をそうさせたか/他
- 【東京 京橋 フィルムセンター】7/12～9/4「生誕100年 映画監督 加藤泰」…(映像美で知られる時代劇の名匠を特集)
- 【東京 田町交通ビル】7/23「レイバー映画祭2016」…バレードへようこそ(英)/オキュパイ・ペーカリー(米)/他
- 【川崎市市民ミュージアム】7/2～18「勅使河原宏と松本俊夫」…おとし穴/西陣/300トントレーラー/他
- 【横浜シネマリン】7/16～24「ハマのドキュメンタリー映画作家たち」…あしがらさん/フツの仕事をしたい/他
- 【秋田 週末名画座シネマパレ】7/8～9・7/15～18『流れる』(1956年/監督・成瀬巳喜男)
- 【京都文化博物館】6/25～7/15「EUフィルムデー2016」…ルッチと宜江(ラトビア)/ラブ&マネー(スロバキア)/他
- 【大阪 九条 シネ・ヌーヴォ】6/25～7/8「映画と憲法」…1960年6月 安保への怒り/ありふれたファシズム/他
- 【大阪 新世界国際劇場】6/29～7/5 マイ・インターン/マネー・ショート/Mr.ホームズ(3本立)
- 【湯布院公民館】6/24～26「第19回 ゆふいん文化・記録映画祭」…石の譜/隅田川/ヤクザと憲法/他
- 【日田リバルテ】6/25～7/8「菊池亜希子特集」…森崎書店の日々/海のふた/豆大福ものがたり/他
- 【アンスティチュ・フランセ九州】7/6～10「第30回 福岡アジア映画祭」…新地町の漁師たち/ノ・ミヌの食べる存在/他

【作品ガイド】『トウキョウソナタ』

2008年/119分 製作/Entertainment Farm 他 監督/黒沢清 脚本/マックス・マニックス、黒沢清、田中幸子
 撮影/芦澤明子 出演/香川照之、小泉今日子、役所広司、井川遥 ほか

日本・香港・オランダの共同製作によるホームドラマ。カンヌ国際映画祭「ある視点」部門・審査員賞受賞。

《あらすじ》井の頭線沿線の一軒家に暮らす佐々木一家は、それぞれに秘密を抱えていた。健康機器メーカーで働く夫・竜平は、より安い賃金で働く外国人労働者の代わりに会社を解雇される。紆余曲折を経て、竜平はショッピング・モールのトイレ清掃の職に就く。同時に妻や二人の息子たちにも大きな変化が訪れる。

時を置いて 繰り返し見てほしい映画 文：清水洋子

この映画は、見る人が置かれたその時の境遇や心持ちで、感じ方が変わると思う。わたしの場合、41歳で結婚して、新しい環境に適応するのに精一杯。元々ひとつのことしかできない性格なので、自ずとTVディレクター職は廃業状態になっていった。そんな時にこの映画を見た。「落ち込んでしまったじゃないか！ホラー映画だよ…」と感じた。しかし、新しい職を得て再び見直したら、「これ、ハッピーエンドじゃん！」に変わった。

わたしがシンパシーを抱いたのは香川照之演じる佐々木竜平だ。経済的にも社会的にも評価されている職業で、平和な家庭を営んできた(つमりの)サラリーマン。しかし、思いがけず解雇を言い渡され、戸惑い、妻や子供に告白できない。それまで通り背広を着て、出勤を装いながらハローワークへ行く。「あなたには、さしたる技能がありません。紹介できる職業はこれです」と差し出されたのは、ショッピング・モールのトイレ清掃の仕事だった。

家族に新しい仕事のことを隠したまま背広姿で仕事現場に赴き、赤いユニフォームに着替え、トイレ清掃の仕事をはじめ。「どうして俺がこんな仕事をしなくちゃいけないんだ?」。はじめは屈辱を感じる。そして偶然、妻に仕事現場を目撃されてしまう。そこで家族は初めて、もはや以前のサラリーマン家庭ではない事実を知る。

しかし、家族は離散しなかった。むしろ、これまで無理をしながら家庭を維持していたことに気づき、再生する。トイレ清掃の仕事にやり甲斐を見い出すと同時に、威厳ある父親であろうとして、どれだけ家族を抑圧していたか? 竜平は気づく。そして妻や息子それぞれの幸せを尊重することに目覚める。竜平は新しい仕事を通して、それまで接点のなかったような仕事仲間と出会い、清掃の技術を磨きながら彼なりの働く喜びを発見し、満たされてゆく。

わたしの場合、さまざまな試行錯誤の末、障碍児のケアの仕事に辿り着いた。障碍児に関心を抱いたことはない。資格は持っていたけれど、子供を生み育てた経験のない自分には無理と思い込んでいた。深い動機はなかったのに、やってみたら、おもしろかった! 新しい仕事を通じて、社会をそれまでとは別の視点から発見する毎日を送っている。便秘気味のお子さんのオムツ交換をされていてウンチがあると「すっきりして気持ちいいね!」と嬉しくなる。障碍当事者や彼等の家族のお役に立てる仕事をしている実感がある。

大学を卒業してから結婚するまでのおよそ20年、番組制作の仕事をつづけた。締め切りまで、出来る限り番組のクオリティーを上げようと寝食を忘れ、他人を思い遣る余裕もなく、ひたすら仕事に没入していた。それしか出来ないと考えていた。しかし無職になった時、それまで自分を支えていたアイデンティティーを失い、どん底を味わった。そんな時に『トウキョウソナタ』を見た。けれど50歳を目前に自分でも意外な職に就き、「こんなことも出来るんだ!」と驚くと同時に、働くことにじんわり幸せを感じている。世間からどう見えるかは気にならない。いくつになっても人は変われると身をもって知った。

『トウキョウソナタ』は、時を置いて繰り返し見てほしい。その度に新しい発見があるはずだ。この映画は

「働くことに幸せを感じていますか? その幸せのために誰かを犠牲にしていますか?
 あなたは家族との幸せな生活を大切にしていますか?」

と、問いかけてくるはずだ。

【しみずようこ】1967年生まれ。テレビディレクターとして26カ国で労働。現在は主婦業とともに、福祉NPOで労働中。



【DVD】
メディアファクトリー

【労働映画のスターたち】第9回「小池徹平」 文:百永良武

苛酷なゲンバで磨かれ続ける「逆境王子」

「美男子なのに〇〇……」。〇〇の中身は「情けない」だったり、「かわいそう」だったり。爽やかな童顔で、文句のつけようがない美男子。なのに、様々な試練に直面し、歯を食いしばりながらじっと耐える姿を演じることが多く、観客のハートを(老若男女を問わず)驚掴みにしてきた。そんな《逆境王子》の徹平さんも今年で30歳。この10年間は、新社会人として職場に飛び込み、ハードな労働環境や複雑な人間関係を翻弄される役を数多く演じた。ドラマの中でのあだ名も「僕ちゃん」(医龍)、「ストーブさん」(あまちゃん)、「あほぼん」(ちかえもん)と、なんだか情けないものばかり。苛酷なゲンバで「揉まれる」後輩を演じさせたら右に出る者のいない、小池徹平という存在を観察してみよう。

1986年、大阪府出身。15歳の時、月刊誌「JUNON」の美男子コンテストでグランプリを受賞し、芸能界入りする。同年で同じ事務所のウエンツ瑛士と音楽デュオ「WaT(ワット)」を結成。路上ライブを行いながら、『ヤンキー母校に帰る』(2003/TBS)、『WATER BOYS 2』(2004/フジ)、『ごくせん』(2005/日テレ)、『ドラゴン桜』(2005/TBS)などの学園ドラマで生徒役を演じる。撮影現場で、同年代の俳優たちと一緒に過ごす日々は大きな刺激になったそうで、現在の「キャラ」と「立ち位置」は、この頃に知らず知らず確立されていったのかも知れない。

「WaT」は2005年にメジャーデビュー。「NHK紅白歌合戦」に4年連続で出場を果たすが、次第にウエンツはバラエティ番組に、小池は俳優業へと軸足を移していく。初主演映画『ラブ☆コン』(2006、監督・石川北二)では、自分より身長が10センチ高い女子と付き合うことになる高校生役。身長へのコンプレックスを抱える者同士が、ケンカしながら理解を深めていく日々を描いた甘酸っぱいラブコメディで、か弱そうな彼氏が、彼女のために精一杯の俠気を見せる姿に心を奪われる。

2006年に始まったフジテレビの『医龍 Team Medical Dragon』では、大学病院の研修医として登場。封建的な「医局制度」に疑問を持ち、理想の医師を目指して腕を磨く青年を演じた。8年にわたり続いた人気シリーズは、彼の人間的な成長を見守る物語でもあった。

2008年にはベストセラーの映画化『ホームレス中学生』(監督・古厩智之)で、お笑い芸人・田村裕の少年時代を演じる。既に22歳だったにもかかわらず、中学2年生になりきってみせた。一家離散後の悲惨な野宿生活も、彼が演じることで堅苦しいリアリズムから自由となり、「ファンタジー」としての逆境物語を生み出すことに成功した。見る前の先入観を木っ端微塵にしてくれる秀作。

そして2009年、電子掲示板「2ちゃんねる」に書き込まれた匿名人物の体験談を原作とする映画『ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない』(監督・佐藤祐市)に主演。「ITゼネコン」と呼ばれる業界ピラミッドの底辺に位置する企業に、プログラマーとして採用された若者が、「納品までは家に帰れない」ブラックな職場環境でいかに戦っていくかが描かれる。全編で《逆境王子》の魅力が炸裂する、ファン必見の1本。

その後も、大手ゼネコンの公共工事部門に配属された若手社員が、建設業界の「談合」の闇に巻き込まれるようになる企業サスペンス『鉄の骨』(2010、NHK名古屋)、村の診療所に赴任した新米医師が、地域医療の現実と向き合う『ドクター』(2012、BSプレミアム)、人命救助の最前線に放り込まれた新人消防士の葛藤を描く『ボーダーライン』(2014、NHK大阪)などに主演。「現場」で揉まれながら成長する若者役が相次ぐ。

その一方で、社会になじめず、挫折を味わった若者を演じる機会も増えてきた。NHKの朝ドラ『あまちゃん』(2013)で演じた足立ヒロシは、就職先の東京から逃げ出し、実家の薪ストーブの前に居座るようになった通称「ストーブさん」。近松門左衛門が主人公の時代劇コメディ『ちかえもん』(2016、NHK大阪)では、大坂随一の豪商の息子で、父親への反撥から放蕩の限りを尽くす「あほぼん」徳兵衛。世間からドロップアウトした若者が、様々な人との出会いを経て再起のきっかけをつかむ姿を演じた。強烈な個性が揃う両番組にあって、とすれば「影の薄い二枚目」となりがちな役柄だが、彼ならではの真直な存在感は、むしろキャストのアンサンブルに広がりをもたせていた。

様々なゲンバで磨かれてきた《逆境王子》。30代はどんな人生を演じていくのか、期待している。



ホームレス中学生
(2008)



ブラック会社に…
(2009)



鉄の骨
(2010)



ちかえもん
(2016)